

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成30年7月12日(2018.7.12)

【公開番号】特開2017-71919(P2017-71919A)

【公開日】平成29年4月13日(2017.4.13)

【年通号数】公開・登録公報2017-015

【出願番号】特願2015-198135(P2015-198135)

【国際特許分類】

E 0 4 F 13/08 (2006.01)

E 0 4 B 9/24 (2006.01)

【F I】

E 0 4 F 13/08 1 0 1 F

E 0 4 B 5/57 F

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月30日(2018.5.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

本発明の保持材は、前述のように中央縦片部と、横片部と、内側縦片部と、外側縦片部と、支持部を有し、型鋼の下フランジに対して室内側から取付可能な構成である。この保持材は、型鋼の長さ方向に連続する長尺状でもよいが、後述する図示実施例のように所定長さ形成した部材を適宜間隔にて複数取り付けるようにしてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 5】

この型鋼 4 C は、図 3 ( c ) に示すように縦方向に配されるウェブ 4 4 の両端 ( 上下端 ) にフランジ 4 6 , 4 5 を有するリップ Z 型鋼であって、先端に上向き片 4 5 1 を備える下フランジ 4 5 は図面右方へ延在している ( 上フランジ 4 6 は左方へ延在している ) 。

またこの例では、図 3 ( d ) に示す縦片部 2 1 c を前記図 2 における押さえ材 2 の縦片部 2 1 に比べて短く形成した小幅状の押さえ材 2 C を用いた。この押さえ材 2 C は、前記図 2 における押さえ材 2 とは異なり、型鋼 4 C への仮止め構成を有していないが、ビス 2 b を側方 ( 図面の左方 ) から打ち込んで固定する点や建材板 5 の表面を押さえ片 2 2 にて押さえ保持する点などは同様である。